

循環資源利用促進設備整備費補助事業評価意見聴取会
評価委員からの意見

[視点] 事業者の事業継続性

- 過去に補助を受けている事業についての継続したフォローアップと、追加申請時における事業実施状況の確認により、事業評価を検討することが必要。
- 過去に補助を受けた施設の単純更新や事業計画で示された需要に疑義があるとしても、設備を活用して、事業を継続することが大事であるということを、どう評価するのが課題。
- 事業者の財政上の問題は是正していかなければならないところ。
例えば、リサイクルアドバイザー事業を活用し、申請確認時に、これまでアドバイザーを受けているかどうかの確認や、採択時に前提条件を付し、経営アドバイザーを受けるようにすることで経営問題が改善するのではないか。
- 企業がビジネスとして回っているのであれば良いが、コストをかけてでもやらざるを得ないということも出てくると思うので、経営のサポートとが支援（補助）とセットとなっているのは必要と考える。
- 複数年にまたがる事業を認めることで、しっかりとした事業ができるのではないか。
- 事業期間は、長くすることはないと考えている。今ビジネスはスピードを上げてやらなければならないので、むしろ企業側がもっと前から計画して、その年度目がけて申請するようなことをもう少し考えて、申請を検討したら良いと考える。

[視点] 地域性

- 過去には、「がれき」ばかり、「廃プラ」ばかり、「汚泥」ばかり、という年度があった。本当にそんなに廃棄物が出ているのかということもあり、地域による違いや、費用対効果をどう評価するかを考える必要はあるが、「がれき」の部門はここまで、「廃プラ」はここまでというようなことはできないのか検討してはどうか。

[視点] 社会的背景

- 時代の変化に対応した、例えば、脱炭素社会やバイオマスの利活用など、循環型社会の推進に求められている課題に、幅広く使えるような設備整備の補助事業が必要。
- 自治体が自分たちで一般廃棄物を処理するのが苦しくなり、地域の産廃処理業者に頼らなければならない時期が間もなく来ると考える。例えば、自治体が出資するものについては一般廃棄物が混じっていても、ある程度要件を緩和するなど窓口を広げてもいいのではないか。

[視点] 事業の信頼性

- 「がれき」は、再生骨材としての利用を進め、道の建設部では路盤材には再生材を使いましょう、というようになっているので、需要はあると考える。需要はあるのだけれど、良い品質のものが安定して供給できるかという方に問題があるのではないか。
- クオリティチェックが重要。過去の事例でうまくいっている実例などがデータベースとしてあると良い。
- 北海道が補助するからには、実績のあるもの、前年にFSを行い技術的に確証があるものなど、エビデンスがある方が良いと考える。申請書の中で事業者側がきちんと実施していますかというチェックが必要と考える。